

T S4/5/1

4/5/1

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI  
(c) 2006 Thomson Derwent. All rts. reserv.

003204450

WPI Acc No: 1981-65002D/198136

Ink jet recording where recording substrate is precoated - with soln. of carboxymethyl cellulose, PVA, PVP, acetyl cellulose, or polyvinyl acetate or butyral, improves image outline

Patent Assignee: CANON KK (CANO )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 56089595	A	19810720				198136 B

Priority Applications (No Type Date): JP 79166564 A 19791221

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 56089595	A	5		

Abstract (Basic): JP 56089595 A

In the recording, a soln. is introduced into an orifice and injected from its outlet to a face to be recorded (I) in droplet form. (I) is coated with a soln. of carboxymethyl cellulose, PVA, PVP, acetyl cellulose or polyvinyl acetate or butyral, which forms a film. Pref. the resin is dissolved in water or alcohol in a concn. of 0.1-5%. Pref. the resin soln. is injected or sprayed onto the recording side, through a side head with a certain time interval before recording.

The film controls the absorption of the recording soln. The printings obtdd. have sharp image outline, rich glossiness and sharp colour tone.

Title Terms: INK; JET; RECORD; RECORD; SUBSTRATE; PRECOAT; SOLUTION; CARBOXYMETHYL; CELLULOSE; PVA; PVP; ACETYL; CELLULOSE; POLYVINYL; ACETATE ; BUTYRAL; IMPROVE; IMAGE; OUTLINE

Index Terms/Additional Words: POLYVINYL; ACETATE; PYRROLIDONE

Derwent Class: A97; G05; F75

International Patent Class (Additional): B41J-003/04; B41M-005/00;  
G01D-015/18

File Segment: CPI; EngPI

?

⑨ 日本国特許庁 (JP)  
 ⑩ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開  
 昭56-89595

⑫ Int. Cl. <sup>3</sup>	識別記号	府内整理番号	⑬ 公開 昭和56年(1981)7月20日
B 41 M 5/00		6906-2H	発明の数 1
B 41 J 3/04	1 0 1	7231-2C	審査請求 未請求
// G 01 D 15/18		6336-2F	

(全 5 頁)

④ インクジェット記録法

① 特 願 昭54-166564  
 ② 出 願 昭54(1979)12月21日  
 ③ 発明者 栗田毅 東京都大田区下丸子3丁目30番  
 2号キヤノン株式会社内  
 ④ 発明者 松藤洋治 東京都大田区下丸子3丁目30番  
 2号キヤノン株式会社内  
 ⑤ 発明者 春田昌宏 東京都大田区下丸子3丁目30番  
 2号キヤノン株式会社内

2号キヤノン株式会社内  
 ⑥ 発明者 太田徳也 東京都大田区下丸子3丁目30番  
 2号キヤノン株式会社内  
 ⑦ 発明者 矢野泰弘 東京都大田区下丸子3丁目30番  
 2号キヤノン株式会社内  
 ⑧ 出願人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番  
 2号  
 ⑨ 代理人 弁理士 丸島儀一

明細書

1. 発明の名称

インクジェット記録法

2. 本許請求の範囲

細孔内に導入される記録液を前記細孔に通じて開口から液状にして噴射し、この記録液滴を被記録面に付着させて記録を行なうに先立って、前記被記録面に、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルビロリドン、アセチルセルロース、ポリ酢酸ビニル又はポリビニルブチラールの何れかの溶液を噴射し、形成された被膜上に前記細孔の溶液を付着させることを特徴とするインクジェット記録法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、一般に、インクと呼ばれる記録液を微細孔（オリフィス）から小液にして吐出、飛散させ、この小液の被記録面への付着を以て記録を行う、所謂、インクジェット記録法に関する。

現在、知られる各種、記録方式の中でも、記録時に、駆音の発生がほとんどないノンインバクト記録方式であって、且つ、高速記録が可能であり、しかも、普通紙に特別の定着処理を必要とせずに記録の行なえるインクジェット記録法は、極めて有用な記録方式であると認められている。このインクジェット記録法に就いては、これまでにも様々な方式が提案され、改良が加えられて商品化されたものもあれば、現在もなお実用化への努力が続けられているものもある。

インクジェット記録法は、要するに、インクと称される記録液の小液滴 (drop) を飛散させ、それを紙等の被記録材に付着させて記録を行なうものである。そして、記録液滴の発生法及び生じた液滴の飛散方向を制御する為の制御方法等に基づき、このインクジェット記録法は、幾つかの方式に大別される。

それ等の中で、代表的な方式の一つは、例えば USP3698276 (Sweet 方式)、USP3298030 (Lewis and Brown 方式) 等に開示されている方式であ

って、通常振動発生法によって帯電量の制御された複数波を発生させ、この帯電量の制御された複数波を、一様の電界が掛けられている偏角電極間に飛翔させることで、複数の飛翔軌跡を割離しつつ被記録部材上に記録を行なうものである。そして、この方式は、一般にコンタインアス方式とも略称されている。

これと対比される代表的な他の方式は、例えばUSP3747110に掲示されている方式(Stamme方式)である。この方式は、記録のためのインク滴を吐出するオリフィスを有する錐管ヘッドに付設されているビエゾ振動素子に、電気的な記録信号を印加し、この電気的記録信号をビエゾ振動素子の機械的振動に変え、その機械的振動に従って必要時刻に前記オリフィスよりインク滴を吐出飛翔させて被記録部材に付着させることで記録を行なうものである。

これが、所謂、オシドマード方式である。又、別に、これ等の方式とは原理、思想を異にする記録方式も、本件出願人によって(つまり、特

3

の明瞭な印刷膜を形成するのに對し、インクジェット方式ではインクとして染料の希薄液を用いるため毛管現象によって染料が紙の表面に拡散しあるは紙の内部に沈みこんで上記のような膜を作らないことに起因する。

本発明はインクジェット印刷に伴うとのような欠点を改良し、画像の輪郭がシャープで光沢に富み色調の鮮明な印刷物を与えるインクジェット記録方法を提供することを目的とする。

そして、この様な目的を達成する本発明とは、細孔内に導入される記録液を前記細孔に逸じた開口から噴射して噴射し、この記録液を被記録面に付着させて記録を行なうに先立って、前記被記録面に、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルビロリドン、アセチルセルロース、ポリ酢酸ビニル又はポリビニルブチラールの何れかの溶液を噴射し、形成された被膜面上に前記記録液を付着させるとともに特徴とするインクジェット記録法である。

本発明には、紙等、一般に記録液(インク)

開闢54-59936号に於て)提案されている。この方式は、要するに、作用窓中に導入されたインクに対して、情報信号として熱的パルスを与え、前記インクが状態変化を起こすことによって生じる作用力に従って、先の作用窓に付設したオリフィスより、前記インクを小滴にして吐出・飛翔せしめ、これを紙等の被記録部材に付着させて記録を行なう方式である。

以上に、その概要を説明したインクジェット記録技術について、従来より、それを実用化する上で、幾つかの不適合が指摘されている。その中でも、重大な欠点はインクジェット記録法による記録面質が一般の印刷によるもの程良好でない点にある。つまり、インクジェット記録法によって記録された画像の質は、凸版、オフセット、グラビア等の通常の印刷物と比較すると、シャープネス、光沢、色調の鮮明さ等の点で見劣りすると言わざるをえない。これは、通常の印刷においてはインクがビクル中に顕料を分散した組成であって、紙面上に平滑な境界

4

の吸収に富んだ被記録面にインクジェット記録を行なう場合、最大の効果が發揮される。

つまり、本発明では、被記録部材への記録液の吸収性を調節する目的から、記録液の噴射に先立って、被記録面上に紙上の印刷膜の被膜を形成するものである。

特に被記録面が紙から成る場合は、本発明の目的に合った樹脂としては、

- 1.カルボキシメチルセルロース
- 2.ポリビニルアルコール
- 3.ポリビニルビロリドン
- 4.アセチルセルロース
- 5.ポリ酢酸ビニル
- 6.ポリビニルブチラール、の何れかである。そして、これ等の樹脂は、通常0.1%~5%の濃度の溶液(カルボキシメチルセルロース水溶液、ポリビニルアルコール水溶液、ポリビニルビロリドンエタノール溶液、アセチルセルロースアセトン溶液、ポリ酢酸ビニルエタノール溶液、ポリビニルブチラールエタノール溶液)にして、

所定のインクジェット記録ヘッドと別の手段によって、被記録面に付与される。

ところで、本発明のインクジェット記録法を複式図によって示すと、第1回の如くである。

即ち、インクジェット方式の記録ヘッド1に対し相对移動する記録用紙2に向けて、先ず、刷ヘッド1aからカルボキシメチルセルロース水溶液、ポリビニルアルコール水溶液、ポリビニルピロリドンエタノール溶液、アセチルセルロースアセトン溶液、ポリ酢酸ビニルエタノール溶液、ポリビニルケラールエタノール溶液、の何れかを噴射した後、一定の遅れ時間をもって主ヘッド1bから記録用インクを噴射して記録を行なう。この際、主ヘッド1bから喷射されるインク滴が記録用紙2上で、事前に刷ヘッド1aから記録用紙2上に打込まれた被記録面の竹筋点とほぼ一致するよう、両ヘッド1a、1bの配置を定める。又は、紙上と同じ目的から刷ヘッド1aと主ヘッド1bとの信号入力のタイミングをずらす。なお、図中、3は信号発

生回路である。

この様にすれば、刷ヘッド1aから噴射された紙上の樹脂溶液は、記録用紙2に到達してそこに被膜を形成するので、その上に吐出された記録インク滴は被記録紙の作用を受けることなく該被膜上で乾燥して染料の被膜を形成し、その結果記録面像は最初が明暗で光沢に富み、された色調のものになるのである。

かくして本発明によれば、シャープで高光沢、色調鮮明である高品質の印刷物が容易に得られる。又、本発明では、樹脂溶液の噴射は記録信号に無関係に連続的であって良い。又、その噴射手段としては前記したインクジェット方式のほか、スプレーガン等通常の噴射装置も、勿論使用することができます。

以下、実施例によって本発明を具体的に説明する。

#### 実施例 1

印字実験装置の概要を第2図に示す。

201はサイズ度 $64 \text{ mm} \times 80 \text{ mm}$ の記録用紙202を

片面に巻付けた回転ドラムである。

203は前ヘッド204は主ヘッドであり、201の回転軸に垂直な共通平面上に配列されており、互いの位置関係を保持したまま刷毛室方向に可動である。刷ヘッド203は圧縮空気による通常のスプレーガンであり、カルボキシメチルセルロースの3%水溶液（粘度1.2センチポイズ）を噴射せしめた。

他方、主ヘッド204は第3図(a)、第3図(b)にその詳細構造を図示した様式で下記の手順で作成された。なお、第3図(a)は記録ヘッドをオリフィス側から見た平面図であり、そのX、Y軸に於ける切削面の断面が第3図(b)である。

すなわち、アルミニウム板301上に $810\text{\AA}$ 層302（下部層）をスピッタリングにより $5\mu\text{m}$ 厚に形成、続いて熱抵抗膜303として $\text{HfB}_2$ を $1000\text{\AA}$ 厚に、アルミニウムを電極304として $3000\text{\AA}$ 厚に積層した後、選択エッティングによって $50\text{\mu m} \times 200\text{\mu m}$ の熱抵抗体バターンHPを形成した。次に $\text{SiO}_2$ をスピッタリングにより $3500\text{\AA}$ 厚に設

けて保護層305（上部層）として積層して基板上に電気・熱交換体を形成した後、幅 $50\text{\mu m}$ ×深さ $50\text{\mu m}$ の溝306を刻んだガラス板307を導き306と熱抵抗体バターンHPが合致するように接合した。引続いて熱抵抗体バターンHPの端部とオリフィス308の距離が $250\text{\mu m}$ になるようオリフィス面を研磨して記録ヘッド204を作成した。この記録ヘッドを用いて、以下に示す組成のインクを吐出させた。

黒色染料（アセソスピコンブラックGMHスペシャル）	5 部
エタノール	4.5 部
ジエチレン glycole	2.0 部
N-メチル-2-ピロリドン	3.0 部

（印字信号は $10\text{kHz}$ 、 $40\text{V}$ の矩形パルス、周期 $200\text{msec}$ ）

前記刷ヘッドを噴射させつつそれに重ねて印字を行なったところ、シャープさ、光沢および色調の非常にすぐれた記録が得られた。これに對し、刷ヘッド203の噴射を止めて行なった記録では、像の鮮鋭さに欠け光沢がなく、色調もくすんでいた。

## 実施例 2

実施例 1 で主ヘッドから吐出させたインクに代えて、次の組成のインクを用いて実施例 1 と同様の実験を行なったところ、いずれの場合も鮮鋭度・光沢および色調のすぐれた記録を行なうことができた。

## 実施例 3

	黒色染料(ウォーターブラック 187-D 実成品) 5部
2-1	エタノール 70 #
	ジエチレン glycolモノエチルエーテル 25 #
	黒色染料(アイゼンオバールブック BNH) 5 #
2-2	エタノール 65 #
	N-メチル-2-ビロリドン 30 #
	黒色染料(ニクロシン) 5 #
2-3	エタノール 70 #
	オレイン酸 25 #
	青色染料(アイゼンスピロンブルーGNH) 5 #
2-4	エタノール 65 #
	エチレン glycolモノエチルエーテル 30 #

11

## 実施例 3 ~ 16

実施例 1 に於て、副ヘッド 203 から噴射するカルボキシメチルセルロースの 1% 水溶液を下表に記載のものに代え、他は実施例 1 と全く同様に印字実験を行なった結果、何れの場合にも、実施例 1 とほぼ同様の良品位の印刷物が得られた。

実施例	樹脂溶液
3	カルボキシメチルセルロースの 1% 水溶液
4	ポリビニルアルコールの 0.5% 水溶液
5	# 1% #
6	ポリビニルピロリドンの 0.5% エタノール溶液
7	# 1% #
8	# 2% #
9	アセチルセルロースの 1.5% アセトン溶液
10	# 3% #
11	ポリ酢酸ビニルの 0.5% エタノール溶液
12	# 1.5% #
13	# 3% #
14	ポリビニルブチラールの 0.5% #
15	# 1% #
16	# 2% #

13

2-5	イソプロピルアルコール 75 #
	プロビレンカーボホート 20 #
	赤色染料(オイルレッド S & エクストラ) 5 #
2-6	エタノール 45 #
	N-メチル-2-ビロリドン 25 #
	プロビレンカーボホート 25 #
	黒色染料(ザボンファストブラック RB) 5 #
2-7	エタノール 65 #
	ジエチレン glycolモノエチルエーテル 30 #
	赤色染料(オスビスカーレット QT) 5 #
2-8	イソプロピルアルコール 70 #
	N-メチル-2-ビロリドン 25 #
	青色染料(ザボンファストブルー PLE) 5 #
2-9	エタノール 60 #
	エチレン glycolモノエチルエーテル 35 #

\*) 染料分子のスルホン基に結合している  $\text{Na}^+$  を  $\text{NH} (\text{CH}_2\text{CH}_2\text{OH})$  で置換したもの。

12

## 実施例 17

実施例 1 の副ヘッド 203 に代えて円筒状圧電素子を使用したインクジェットヘッドを用い、実施例 1 と同様の実験を行なったところ、鮮鋭度・光沢および色調のすぐれた記録画像が得られた。

## 実施例 18

実施例 1 の主ヘッド 204 に代えて、円筒状圧電素子を使用したインクジェットヘッドを用いて、実施例 1 と同様の実験を行なったところ、鮮鋭度・光沢および色調のすぐれた記録画像が得られた。

## 実施例 19

実施例 1 の記録用紙に代えて、サイズ  $0.1 \text{ mm} \times 0.1 \text{ mm}/\text{m}^2$  の記録用紙を用いて実施例 3 ~ 16 と同様の実験を行なったところ、何れの場合も、鮮鋭度・光沢・色調の優れた良品位の記録画像が得られた。

## 4. 図面の簡単な説明

第 1 図及び第 2 図は、夫々、本発明の実施態

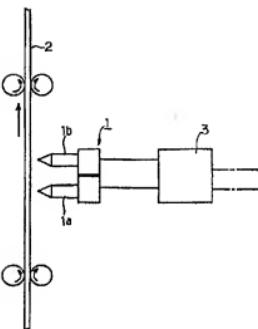
14

様を説明する為の略面構成図、第3図(a)及び第3図(b)は、本発明の実施に利用するインクジェット記録ヘッドの一構成例を示す模式図である。

図に於て、1は記録ヘッド部、1a, 203は前ヘッド、1b, 204は主ヘッド、2, 202は記録用紙である。

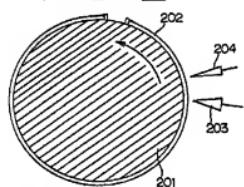
特許出願人 カヤノン株式会社  
代理人 丸島義一

第1 図



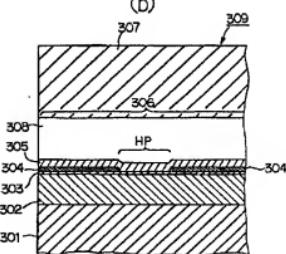
15

第2 図



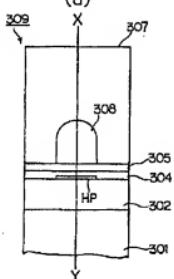
第3 図

(b)



第3 図

(a)



## 特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和54年特許願第 166564号(特開昭56-89595号 昭和56年7月20日発行 公開特許公報 56-896号掲載)については特許法第17条の2の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。 2(4)

1. 2. C I * .	3. 番号記号	4. 原文登録番号
B41M 5/00		8906-2H
B41J 3/04	101	7231-2C
G01D 15/18		8336-2F

## 手続補正書(自見)

昭和58年5月7日

特許庁長官 若杉和夫 殿

## 1. 事件の表示

昭和54年 特許願 第 166564 号

## 2. 発明の名称

インクジェット記録法

## 3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都葛飾区下九丁目10-2

本 所 (100)キヤノン株式会社

代表者 賀来 雄三郎

## 4. 代理人

通 手 1046 東京都葛飾区下九丁目10-2

キヤノン株式会社内(電話 718-1111)

氏 名 (007) ~~賀来 雄三郎~~ (58.5.7.)

## 5. 補正の対象

明細書

## 6. 補正の内容

- 1) 「特許請求の範囲」を別紙のとおり補正する。
- 2) 明細書第5頁第1行目へ下から2行目に、「前記内に\*\*\*\*\*インクジェット記録法である」とあるのを、下記「内」とおりに訂正する。  
「被記録面にインク液を付着させて記録を行うインクジェット記録法において、予め、前記被記録面に、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルビロリドン、アセナルセルロース、ポリ酢酸ビニル、ポリビニルアセタールのうちの少なくとも一種が存在する状態にして前記インク液を付着させることを特徴とするインクジェット記録法である。」

- 3) 明細書第5頁末行に、「本発明には、」とあるのを、「本発明によれば、」と訂正する。

## 特許請求の範囲

被記録面にインク液を付着させて記録を行うインクジェット記録法において、予め、前記被記録面に、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルビロリドン、アセナルセルロース、ポリ酢酸ビニル、ポリビニルアセタールのうちの少なくとも一種が存在する状態にして前記インク液を付着させることを特徴とするインクジェット記録法。